

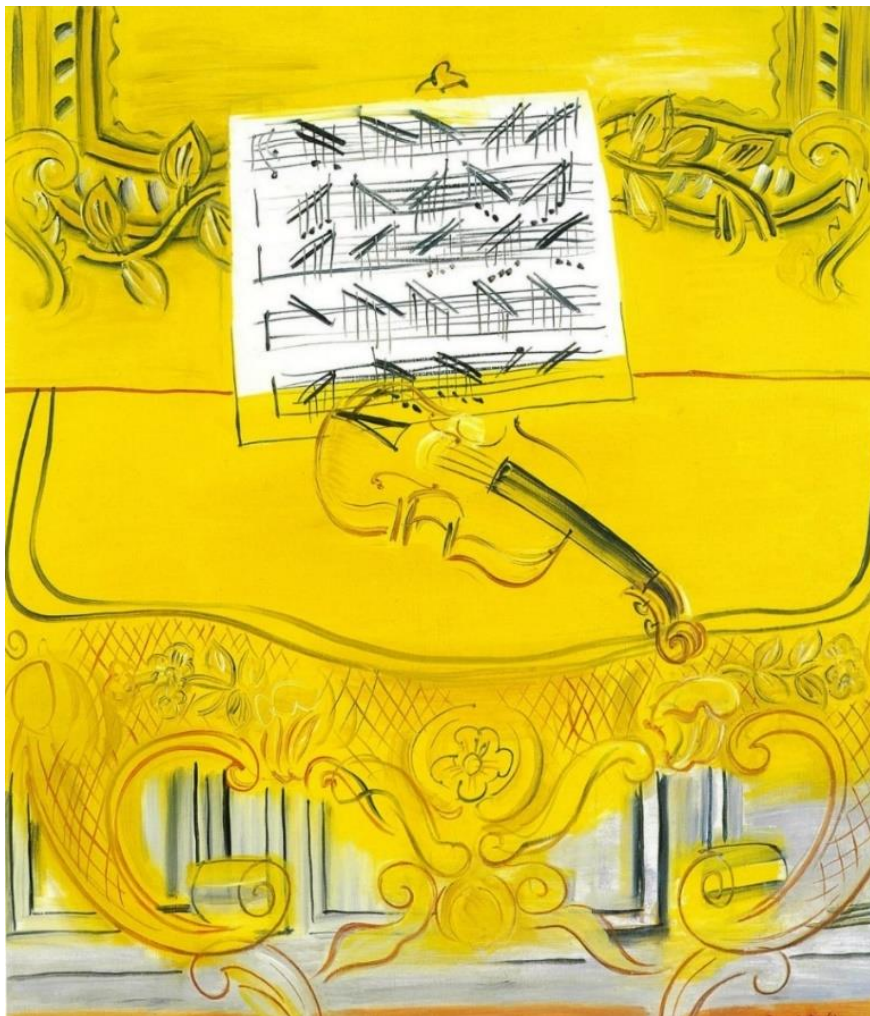
2024年7月

プレスリリース

笠間市笠間 978-4
公益財団法人日動美術財団
笠間日動美術館

フォーヴ・シヨック フランス そして日本へ

2024年9月21日(土)-12月15日(日)



ラウル・デュファイ「黄色いコンソール」 1948年 大谷コレクション

拝啓

ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨秋、茨城県では観光を推進し地域の活性化を図るため、JR 東日本水戸支社と連携し「茨城デスティネーションキャンペーン」が展開され、当館にも日本各地からご来館をいただきました。今秋の「茨城アフターデスティネーションキャンペーン」に際しては、20世紀初頭の革新的な絵画運動「フォーヴィスム(野獣派)」をキーワードに、「フォーヴ・シヨック フランス そして日本へ」を開催いたします。

つきましては、次に展覧会の詳細をご案内しますので、ご取材・ご紹介のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

■ 開催の趣旨

フォーヴィスム(野獣派)ってなんだろう？

20 世紀最初の絵画運動、フォーヴィスムは、スキャンダルとともに幕を開けました。1905 年のサロン・ドートンヌの一室に展示されたアンリ・マティスらによる強烈な色彩と奔放なタッチの作品は見るものを驚かせ、ある評論家が「野獣の檻の中にいるようだ」と揶揄したのです。これにより彼らの作品は「フォーヴィスム(野獣派)」と名付けられました。しかし大きな話題となったこの運動も 1908 年には終息を迎え以降、画家たちはそれぞれ独自の画風を展開していきます。

フォーヴィスムに刺激を受けて日本の画家たちも新しい絵画を目指したのかな？

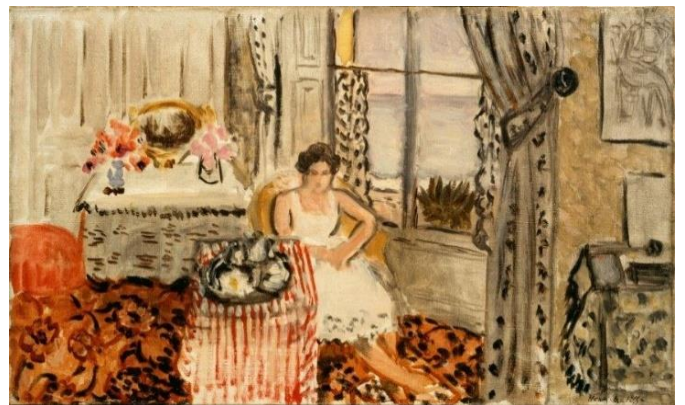
既成の概念に捉われず感覚を重視したフォーヴィスムは日本にも波及しました。「フウザン会」や「1930 年協会」、「独立美術協会」などの美術団体に参加した画家たちの作品にその影響を見ることが出来ます。さらに洋画が成熟していく過程において、既存の美術団体や西洋美術からの脱却を目指し、「日本的フォーヴ」や「日本的油絵」と呼ばれる新時代の美術を模索しました。

どんな絵がみられるの？

フォーヴィスムを代表する画家、マティスやヴラマンク、ドランをはじめ、その影響を受けた佐伯祐三や里見勝蔵らの生命力に溢れる作品を紹介します。これらの展示から、20 世紀初頭から第二次世界大戦後まで、およそ 50 年にわたる日仏美術界の軌跡をご覧ください。



ラウル・デュフィ 「花のある自画像」1907 年
大谷コレクション



アンリ・マティス 「朝のお茶」1919 年
個人蔵



児島善三郎 「座したる女(裸体)」1932 年
児嶋画廊蔵



佐伯祐三 「コルドヌリ(靴屋)」1925年頃
茨城県近代美術館蔵

■ 展覧会構成

I フランスのフォーヴィスム

フォーヴィスムの誕生から、終息後のマティスやヴラマンク、ドランの1930年代までの歩みをご覧ください。
加えて、ヴラマンクと里見勝蔵、佐伯祐三、ルオーと梅原龍三郎ら日仏の画家たちの親交のエピソードを紹介します。

II 日本のフォーヴィスム

20世紀初頭に渡仏し、フォーヴィスムに共感した斎藤与里をはじめ、画集や複製画によりヨーロッパの美術思潮に触れた岸田劉生ら「フェウザン会」の画家たち、また1920年代にパリに留学した里見勝蔵や佐伯祐三らが結成した「1930年協会」、これに続く「独立美術協会」の画家たちの作品を展示します。

III フォーヴィスムを超えて

梅原龍三郎や児島善三郎らの南画や琳派などの伝統的な絵画の要素を取り入れた作品、またマティスやデュフィ、ルオーらによる装飾的要素が見られる色鮮やかな作品を通し、彼らの画風の変遷を紹介します。

■ 出品予定作家

モーリス・ド・ヴラマンク、ラウル・デュフィ、アンドレ・ドラン、キース・ヴァン・ドンゲン、アンリ・マティス、アルベール・マルケ、
ジョルジュ・ルオー、梅原龍三郎、岸田劉生、児島善三郎、佐伯祐三、里見勝蔵、高島達四郎、裕伊之助、林武、前田寛治 他

■ 展覧会の詳細

展覧会名：フォーヴ・ショック フランス そして日本へ

会 期：2024年9月21日(土)～12月15日(日)

会 場：笠間日動美術館 企画展示館(茨城県笠間市笠間 978-4)

開館時間：9時30分より17時(入館受付は16時30分まで)

12月1日(日)からは、10時より16時30分(入館受付は16時まで)

休 館 日：毎週月曜日(9月23日、10月14日、11月4日は開館、翌日休館)

入 館 料：大人 1300円/65歳以上 1000円/大学・高校生 900円/中学 300円/小学生 無料

20名以上の団体は各200円割引/障害者手帳をお持ちの方、その同伴者1名は各半額割引

後援予定：在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ/茨城県/茨城県教育委員会/笠間市/笠間市教育委員会

茨城放送/朝日新聞水戸総局/茨城新聞社/共同通信社水戸支局/産経新聞社水戸支局/東京新聞水戸支局

毎日新聞社水戸支局/読売新聞水戸支局/東日本旅客鉄道株式会社水戸支社

■ 会期中のイベント

・学芸員によるギャラリートーク

日時：9/21(土)、10/12(土)、11/23(土・祝)各日 14:00 から約 30分

■ 担当連絡先

学芸部長 金澤敦子 Email: kanazawa@nichido-garo.co.jp

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-3-16 日動画廊内

電話 03-3571-2553/FAX 03-3289-4446

学芸員 長谷川翠 Email: hasegawa@nichido-museum.or.jp

〒309-1611 茨城県笠間市笠間 978-4 笠間日動美術館

TEL: 0296-72-2160/Fax: 0296-72-5655